

静脩

1998年3月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 34, No. 2-4

電子図書館システム披露式（1998.3.2）特集

平成10年3月2日15時より、京都大学附属図書館1階メイン・カウンター前に設置したサイバー・スペースを会場に電子図書館システムの披露式を開催しました。学外からは、文部省や近畿地区国立大学図書館からの招待者、学内からは、総長、事務局長を始め、附属図書館商議員など多数の教職員の出席を得て、盛大に催されました。

披露式では、最初に、万波通彦附属図書館長の挨拶があり、続いて文部省学術国際局の林一夫学術情報課長、長尾真京都大学総長の祝辞、そして電子図書館プロジェクトを推進している学術情報センター、奈良先端科学技術大学院大学、筑波大学からのお祝いのメッセージがマルチ・メディアで流されました。その後、電子的なくす玉割りとともに、万波館長、林課長、長尾総長、黒川征事務局長がテープカットを行い、サービス開始を祝いました。

最後に、新しく稼働を始めた電子図書館システムのデモンストレーションが行われ、国宝「今昔物語集(鈴鹿本)」や重要文化財「古今集註」(古今和歌集)など、情報発信してゆく本学が所蔵している貴重資料の

画像データベースなどや、学内研究室向けに情報配信してゆく電子ジャーナルやCD-ROM 文献情報などが、画面展開として具体的に紹介され、出席者一同熱心に見聞を広めました。



披露式でのテープカット

附属図書館では、今後とも資料の電子化に積極的に取り組み、情報発信の内容を充実すること、および学内者への効果的な情報配信の内容を構築し、迅速かつ的確な情報提供サービスを実施することを目標に、図書館機能の高度化を目指す予定です。

生まれたての電子図書館をよろしく

京都大学附属図書館長
万波 通彦

京都大学附属図書館に電子図書館システムを設置することができました。これまでにご努力下さった多くの方々に感謝いたします。

既に、各種類の研究用の雑誌、書籍、情報が電子化され、研究の場では電子化された資料が重要な役割を果たすようになってきました。特にアメリカ合衆国では、すでに多くの大学が電子図書館的機能を持ち、その大学に所属する人は電子化された雑誌、資料等を有効に利用しています。さらに、スタンフォード大学を始め6大学で電子図書館の新しいシステムの開発研究が行われています。一方、我が国では国立国会図書館に電子図書館プロジェクトがあり、奈良先端科学技術大学院大学には一次資料の電子化を中心とした電子図書館が設置され、さらに学術情報センターが全国的に大学図書館の電子化を支えています。しかし、外部に向けてのデジタル情報の発信を見る限り、世界的にかなり遅れているように思えます。

一般的図書について見れば、欧米では著作権を適用されない多数の書物がデジタル化され無料で提供されています。例えば、シェクスピアの全作品はデジタル化され、その総てにわたり本文内容を検索できます。検索可能なデジタル化資料は従来考えられなかったような使用法が可能です。これに対し、デジタル化された日本語の図書は数少なく、私の調べた限りでは精々500冊程度をインターネットで見ることができのみです。その点、インターネット上の日本語図書の書棚は殆んど空っぽです。明

治時代に出版された書物は著作権法に規定されている著者没後50年を経過しているものが多く、デ



ィジタル化することに法的な問題は殆どありません。書物のデジタル化には多大の労力と費用を要しますが、より多くの人々が電子図書館を利用しやすくするために必要不可欠です。

京都大学附属図書館では所蔵している貴重資料を画像としてインターネット上に公開してきました。今回の電子図書館の発足に当たり、新たに明治維新関連の維新特別資料の画像を公開しました。今後も所蔵貴重資料の画像を中心として公開していく予定です。この他、「机の上に京都大学」という企画の下に、京都大学百年史、京都大学を紹介する冊子、学位論文の要旨、各部署の紀要目次など京都大学関連の情報をデジタル化して公開する予定です。学内でのみ利用いただける資料としては、Elsevier社発行の雑誌のうち利用頻度の高い電子ジャーナルを33タイトルとOxford English Dictionary、雑誌記事索引等のネットワーク対応のCD-ROMを購入し学内LANで利用できるようにしました。

電子技術の進歩は急速です。電子化した

資料数は増加し、より利用しやすくなることは間違いありません。附属図書館商議会としては、新たに電子図書館専門委員会を設け、電子図書館からの情報発信、学内向け情報配信の内容を検討しています。京都大学として外部に情報を発信するとともに、学内で行われる教育・研究活動に役立つ電

子図書館を構築したいと考えています。書物中心の従来型図書館と同様に、新たに生まれた電子図書館をご利用いただき、改善に向けてご助言下さるようお願いいたします。

(まんなみ みちひこ)

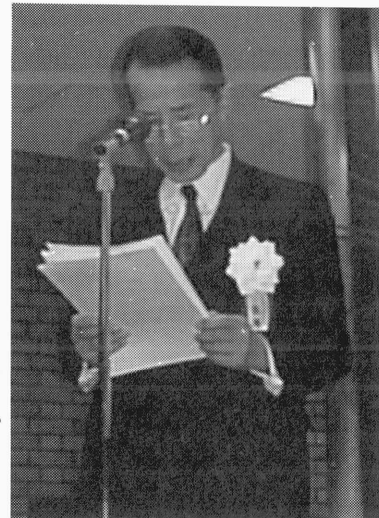
京都大学電子図書館のスタートにあたって

京都大学総長
長尾 真

この度、京都大学附属図書館電子図書館システムが学内外の方々の利用に供されることになりましたことは大変意義のあることで、心より喜び申し上げます。

京都大学附属図書館の情報化の努力は1985年頃から始まり、目録・貸出し業務、さらに国立大学としては最初の学内学術情報システム網の整備が1990年1月に完成しKUINSと称して運用されるにしたがい、OPAC(On-line Public Access Catalogue)が開始されております。そして、1991年には宇治キャンパスとの間での電子ファイリングシステムによる新着雑誌目次提供サービスの実験が行われました。1994年には今回の電子図書館システムの原形である研究開発レベルでの電子図書館システム：アリアドネ(Ariadne)が附属図書館で試用されるようになり、附属図書館の「吉田松蔭とその同志」展の内容がアリアドネの上でも電子展示として公開されました。その後商用文献データベースの学内オンラインサービスはもちろんのこと、附属図書館の持つ種々の貴重書の電子化とアリアドネ上での公開が次々に行われるとともに、インターネットに附属図書館のホームページを設定

し、このホームページからこれらの多くの電子情報を見ることができるようになりました。このような着実な



努力は一つには文部省の「国立大学等優秀広報誌等表彰・奨励賞」を附属図書館のホームページが受賞するという榮譽につながりましたし、今回の電子図書館システムの予算化にもつながったわけであります。京都大学附属図書館のこの着実な努力に高い評価を与え、先進的な将来へ向けての京都大学附属図書館の努力に応え、しっかりした予算を付けて下さった文部省に対して心よりお礼を申し上げます。

京都大学附属図書館のシステムはいくつかの特徴をもっております。その第一は図書館が従来行って来た業務部分の情報シス

テム化、これを業務システムとっておりますが、これと今回披露されました電子図書館システムとがうまく融合した統一システムとして作られたということでもあります。業務システムは既に1月6日から旧システムと入れ替わって順調に運用されて来ておりますが、このシステムにおいても京都大学の各部局にある図書館・図書室、総計60余りに320台の図書館端末を分散設置するとともに、KUINSネットワークを経て学内約8,000台の情報端末からのアクセスも可能であるという巨大で複雑なシステムであるというところに、他の単一の図書館の電子化とは本質的に異なった特徴があるわけであります。OPACにつきましては、現在遡及的に80万件の図書館資料についての検索がこれらの端末はもとより、インターネット経由で全国どこからでも可能となっており、学内外の非常に多くの人々から喜ばれております。

今回披露されました電子図書館システムは世界的にみても種々の独創的な新しい概念を導入した非常に興味のあるシステムであると言えるでしょう。知的所有権という問題があって電子図書館がうまくつくってゆけるかどうかという疑問がある中で、「京都大学エンサイクロペディア」という名称のもとに京都大学が持っている貴重資料のデータベース化、京都大学博士論文要旨集・各種紀要・百年史・京都大学案内、さらには大学院工学研究科の全教官の発表論文アブストラクトへのリンクなど各部局ホームページとのリンクを行い、京都大学が所有し、また創造している情報をどんどんと外部に対して発信してゆく拠点としての機能を果たそうとしております。そして各種の商用文献情報データベース、新着雑誌目次、電子ジャーナルなどのネットワークを介した提供など、学内の研究者・学生に向けての情報サービスをきめ細かく行っ

てゆくことや、本学の電子図書館固有のものとして書誌データ・目次データ・全文データなどのデータベースを整備しながら種々の高機能な検索や豊富な電子読書機能、また参考業務・利用ガイドなどの各種の図書館サービスをネットワークを介してスムーズに行うといった多くの特徴を持っております。さらには京都大学の各部局が創造する学術情報の電子化について強力な支援をするシステムをも付加し、紀要や博士論文要旨集、その他の各部局の情報の電子化とネットワークによる相互利用が円滑に行われるようにする機能もあわせ持っているのです。

そして、「机の上に京都大学」という素晴らしいキャッチフレーズのもとにこれら全体が広く京都大学の構成員に利用されるよう呼びかけてゆこうとしております。さらに大学における勉学の中での図書館の活用がいかに大切であるかということも認識してもらい、図書館を十分に活用する手法を教えるために学部学生を対象として「情報探索入門」という科目を全学共通科目の中に開設することになりました。これは教官による講義とコンピュータ端末を利用した演習を1対1に対応させて、部局図書館の人達をも含んだ図書館司書が演習を全部担当するという、これまでの一般の国立大学にはほとんどなかった形の図書館司書の積極的に参加した科目であります。そして、これに今回の図書館の業務システム・電子図書館システムが大きな役目を果たすわけです。

どこからでも誰でもが使える電子図書館はこれからの大学における研究教育活動の中ですます重要性が高まってゆくことは間違いないことでもあります。京都大学図書館の職員は、あらゆる部局図書館の方々までを含んで、今回の新しいシステムの設計に参加し、またシステム入れ替えに伴う

種々のめんどろな作業に対し、非常に積極的にかかわってこられました結果、非常にスムーズに新しいシステムに移ることができましたし、また今回世界的にも最も進んだ電子図書館機能を実現して下さいました図書館職員の皆様に心からお礼を申し上げます。これからは電子図書館の内容を充実させることが最も大切で、長年の忍耐強い努力が必要となりますが、1年1年着実に積み上げていっていただきたいと思ってお

ります。

最後に、このような素晴らしいシステムができ上がった裏には、このシステムの具体的な設計・製作・納入・調整に何ヶ月も夜を徹して作業していただいた富士通株式会社の努力があります。その努力に対して深く感謝いたします。

電子図書館システムのスタートをお祝いして私のご挨拶といたします。

(ながお まこと)

祝 辞

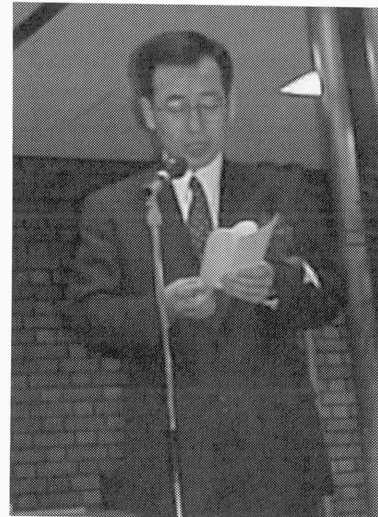
文部省学術国際局
林 一夫 学術情報課長

京都大学附属図書館電子図書館システム披露式が挙行されるに当たりまして、ひとことお祝いのことを申し上げます。

大学図書館は大学におきまして研究・教育を支援する重要な施設でございます。大学改革や行財政改革という大きな変化の中で大学の内容の充実が一層求められておりますけれども、その中心として改めて重要な役割が強く求められてきていると思っております。

特にマルチメディア技術の進展とかインターネットの普及という電子化の流れを背景といたしまして大学図書館の機能とか役割が新しい側面をもってきているということはご案内のとおりでございます。文部省といたしましても学術審議会の審議を経まして平成8年7月に「大学図書館における電子図書館的機能の充実強化について」という建議をいただきました。この建議をうけまして特色ある図書館電子化への取り組みをいただける大学に予算措置をさせていただきます。全国の模範となるような取

り組みをお願いしたいということで、まず今年度京都大学と筑波大学の2大学に取り組んでいただいているわけでございます。



幸い京都大学では長尾学長が電子図書館実験システム「アリアドネ」をつくられ、京都大学図書館が貴重図書の画像情報やテキストデータを提供し実験に協力するとともに、電子図書館に関するノウハウをいち早く習得することができたと伺っております。更に私どもの科学研究費補助金によりまして貴重書の画像データベースを着々つくりあげて来られたことなど並々ならぬ努

力と先進的な試みにより、今日に至っていると承知いたしております。

京都大学は我が国で最も独創的な研究成果を挙げ、ノーベル賞受賞者をはじめ幾多の有為な人材を輩出してこられた大学でございます。百年の歴史の中で蓄積されてきた550万冊に及ぶ資料のうち京都大学固有のものや最新の研究成果などを電子化し、蓄積・発信をし、国内のみならず海外でも大いに役立っていただけることを強く期待申し上げます。

最後に電子図書館システム構築に至るま

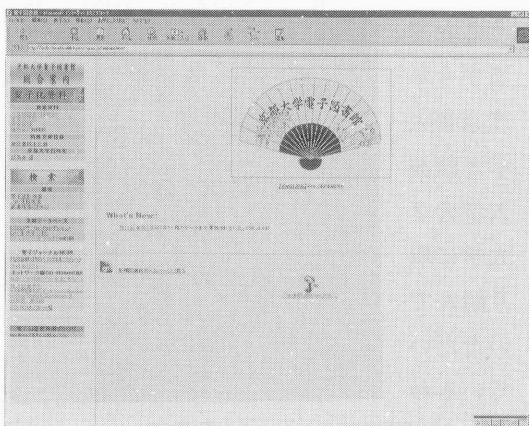
で長尾学長、万波図書館長をはじめ学内外の関係者の方々の並々ならぬご尽力に対しまして深く敬意を表しますとともに、京都大学図書館が学内外の諸組織との連携のもとに電子図書館的機能の充実強化を一層図られ、21世紀の高度情報化社会での新しい大学図書館のモデルとして着実に実績を挙げられること心から祈念いたしまして、簡単ですがお祝いのご挨拶といたします。

本日は大変おめでとうございました。

(はやし かずお)

電子図書館システムデモンストレーション

新しく稼働を始めました電子図書館システムで利用できるコンテンツと新しい機能の一部分について以下に紹介します。

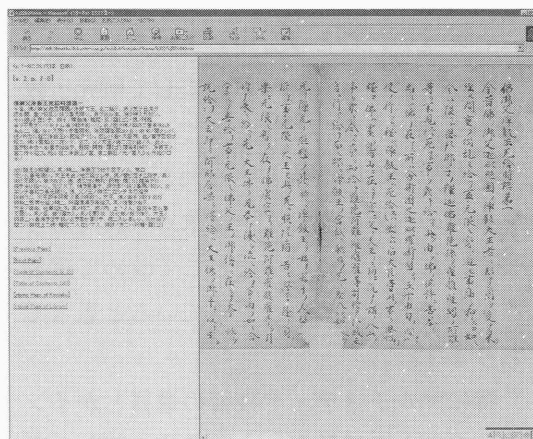


トップページ

まず、コンテンツには、情報発信と情報配信という二つの側面があります。

情報発信においては、本学が所蔵している貴重資料、および本学で生産される学術情報が対象です。これらの資料・情報の電子化を進め、「京都大学エンサイクロペディア」として提供してゆくことが目標です。導入されたシステムでは、画像データ10万

画像以上、文字テキストデータ1,000万文字以上が蓄積できます。



貴重資料画像データベース

すでに公開しているコンテンツの代表的なものを見てみますと、国宝「今昔物語集(鈴鹿本)」や重要文化財「古今集註」(古今和歌集)などの貴重資料があります。これら貴重資料は、現時点で、国宝1点、重要文化財5点、貴重書20点の合計26点の画像データがあり、画像種類数約10,000種、20,000画像のデータ量になります。また、新たに維新資料画像データベースの提供を

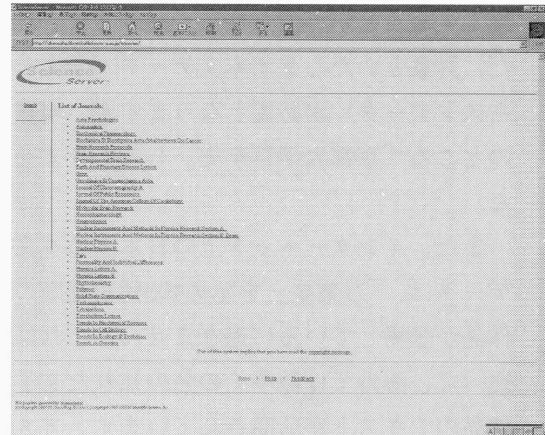
開始いたしました。明治維新に活動した志士たちの遺品・墨跡類を、幕末維新の長州藩の志士で後に子爵となった品川弥二郎が、全国に呼びかけて「尊攘堂」に収集した資料群の画像データです。画像は6,500種類ほどあります。

一方、本学で生産される学術情報としては、現在刊行が継続しております「京都大学百年史：部局史編」の最初の1冊のうち、半分までデータの形成が進んでいます。これについては今後とも電子化を進める予定です。

次に、学内研究室向けに、情報配信するコンテンツを紹介します。

すでにネットワークに提供しております文献情報として、医学・生命科学文献情報のMedline、地質学・地球科学文献情報のGeoRef、心理学・行動科学文献情報のPsycLitなどがありますが、新たに4種類のデータベースの提供を開始しました。我が国で刊行されている雑誌約5,500種の目次を集めた「雑誌記事索引（遡及、カレント）」、戦後50年の朝日新聞記事索引である「ASAX」、最も信頼のおける英語大辞典「Oxford English Dictionary」、日本語辞書として定評のある「広辞苑」です。なお、これらCD-ROMを媒体とします文献情報の中には、ネットワーク提供ができないものも多数あります。附属図書館1階の6台のパソコンでしか利用いただけないものが、全部で31タイトルありますが、そのリストをメニューに付加しました。

さて、次のコンテンツは電子ジャーナルです。3年間程度の試行提供サービスとして35タイトルが提供される予定です。現在は刊行頻度の関係から33タイトルが利用可能です。この電子ジャーナルは、皆さんが専門分野のキーワードを登録しておいて、ジャーナルが新しく追加されますと、登録しておいたキーワードで検索を実行し、そ



電子ジャーナル初期画面

の結果該当するものがあれば、その論文を配信することも可能です。

次に、電子図書館専用クライアントが備えます新しい機能について紹介します。導入メーカーの富士通から提案されたソフトウェア「InfoBrick」の機能がそれです。フル・テキストで蓄積された本文データについて使用できる機能です。まず、横書きのテキストを縦書きに直すことが簡単にできます。そして、画面上で実際に書物のイメージでページをめくってゆく機能があります。これは、「Book Metapher」と呼んでいます。また、このテキストの一部分に付箋を張り付けておき、後でその付箋をたどることができる機能や、付箋部分にメモをつける機能、さらに、開発中ではありますが、本文データの好みの部分を指定して、朗読させる機能や、その部分を機械翻訳させる機能などが備わりました。

これらの新しい機能は、現在のところ、電子図書館専用クライアントからしか利用できませんが、今年の秋頃には、お手元のパソコンの汎用的なネットワーク・ブラウザからも利用可能となる予定です。

もう一つ本文検索について新しい機能があります。OPACと同じように書誌の検索も可能ですが、この検索では、OPACとは異なり、検索語の同義語や訳語についても

検索することが可能となっております。ただ、対象といたします本文データ（全文テキストデータ）が必要となりますが、現在のところ「京都大学百年史」しかありません。

また、インターネット上の日本語の本文データは、「万葉集」を始め400種類程度の作品が登場しているに過ぎません。これに比べて、海外では数多くの名の知れた文学作品のテキストが公開されています。アメリカのゲーテンベルク・プロジェクトでは、1,000点の作品が公開されていますし、ベルセウス・プロジェクトでも数百点が公開されています。

このように日本文学のテキストの作成は、資料電子化において、今後取り組むべき方向性を示しているのかも知れません。日本語テキストの作成においては、コード化されていない文字の処理やルビの問題など技術的に解決されなければならない問題もありますが、一方で、専門家による翻刻作業も必要となってまいります。

日本語テキストだけでなく、「京都大学エンサイクロペディア」の構築には、専門分野の諸先生方の協力が必要となります。より一層のご協力・ご支援をお願いいたします。

（図書館専門員 片山 淳）

電子図書館を含む新システム関連業務日誌

- 2/6 総合評価基準に関する説明会（文部省政府調達班）
- 2/12～ 仕様書（案）改訂作業 2/18～仕様策定委員への説明
- 2/26 意見招請のための官報公告（仕様書（案）配布開始）
- 3/12 意見招請のための説明会[出席メーカー]ビジュアルテクノロジー、リコー、日本サンマイクロシステムズ、日本電子計算、NTT、富士通、日商エレクトロニクス、日商岩井インフォコムシステムズ、ヒューコム
- 3/19 意見招請締切[提出メーカー]日本電子計算、京セラ、日商岩井、NTT、富士通
- 3/26 仕様策定委員会（最終回）
- 4/17 仕様書について文部省への説明
- 4/中旬 政府調達に係る官報公告原稿経理部へ
- 4/21 研究開発室会議（平成9年度第1回）
- 5/初旬 技術審査職員委嘱（工学研究科電子通信工学、大型計算機センター、総合情報メディアセンター）
- 5/8 次期システム運用 WG：調整グループ会議（1）
- 5/16 政府調達に係る入札公告：仕様書について文部省より改訂の指示
- 5/21 次期システム運用 WG 全体会議：運用グループ会議（第1回）
- 5/23 附属図書館商議会（平成9年第1回）、仕様書確定 5/26仕様書配布開始
- 6/4 次期システム運用 WG：調整グループ会議（2）
- 6/6 入札説明会[出席メーカー]日本サンマイクロ、JIP、日本オラクル、日商岩井、日商エレクトロニクス、伊藤伊、富士通、ドットウェル
- 6/19 電子図書館専門委員会（第1回）
- 6/30～ 技術審査に係る担当教官への説明
- 7/2 次期システム運用 WG：調整グループ会議（3）

- 7/7 入札締切(応札者：日商エレクトロニクス、富士通) 7/8 技術審査開始
- 7/11 技術審査委員会(第1回)、電子図書館専門委員会(第2回)
- 7/22 技術審査委員会(第2回)
- 7/23 次期システム運用WG：目録担当職員連絡会(第1回)
- 7/24 経理部への技術審査結果報告
- 8/8 開札(落札・契約：富士通に決定)
- 8/11 次期システム運用WG：調整グループ会議(4)
- 8/12 文部省への入札結果報告
- 8/19 次期システム追加調達仕様策定委員会(第1回)
- 8/21 次期システム運用WG：新システムの概要全体説明会
- 8/22 次期システム追加調達仕様策定委員会(第2回)
- 9/8 次期システム運用WG：調整グループ会議(5)
- 9/10 資料電子化に関する部局調査：アンケート締切
- 9/16 次期システム追加調達：分散データベース統合検索用サーバシステム官報公告
- 9/29 次期システム運用WG：目録担当職員連絡会(第2回)
- 10/2 附属図書館商議会(第2回)
- 10/13 電子図書館専門委員会(第3回)、次期システム運用WG：調整グループ会議(6)
- 10/24 NACSIS 新CAT 接続負荷テスト(テストサーバ)
- 10/26 設置のためのコンピュータ室移動作業、電源トランス入替え工事
- 10/28 新システム(相互利用)説明会
- 10/29 NACSIS 新CAT 接続負荷テスト(本番サーバ)
- 11/4～ 新システム基礎研修(Windows95)(7日まで)
- 11/5 メーカーによる新システム機器設置のための部局工事調査
- 11/6 追加調達(分散データベース統合検索用サーバシステム)：入札締切
- 11/6～ iliswave 体験講座(目録接続負荷テスト申込者)
- 11/7 追加調達：技術審査職員会議(第1回)
- 11/10 追加調達：技術審査職員会議(第2回)
- 11/11 新システムDBMS：ORACLE説明会、機器設置のための部局工事(富士通)
- 11/12 データ移行(目録)：データチェック大作戦開始
- 11/13 新システム運用WG：調整グループ会議(7)
- 11/14 新システム基礎研修(Windows95)補講
- 11/17 機器搬入開始～、電子図書館専門委員会(第4回)
- 11/19 新システム研修担当者セミナー(ブラウザ、電子メール)
- 11/25 新システム基礎研修(ブラウザ、電子メール)(～28日)
- 12/1 新システム機能評価開始(～5日)
- 12/3 新システム運用WG：調整グループ会議(8)
- 12/4 部局端末システム担当者連絡会議
- 12/5 現行目録データ作成業務最終日 12/6 目録データ移行作業開始
- 12/8 附属図書館内クライアント設置開始
- 12/10 新図書館業務システム全体説明会、www版OPAC説明会

- 12/11 新システム業務研修：目録(11、12、15、16、19)
- 12/17 新システム基礎研修(Windows95) (~18日)
- 12/22 新システム業務ソフト配布、運用テスト開始
- 12/25 NACSIS 新 CAT 接続テスト、附属図書館内利用者スペースクライアント設置 (~26日)
- 1/6 新システム本番稼働(目録、閲覧、統計、相互利用、www OPAC)
- 1/13 新システム運用 WG：調整グループ会議(9)
- 1/14 新システム業務研修：目録インストラクター養成講座
- 1/16 新システム業務研修：OPAC 説明会(午前午後2回開催：150名参加)
- 1/20 附属図書館商議会(平成9年度第3回)
- 1/21 学内 I L L 説明会
- 2/3 新システムメーカーとの定例打合せ (第3回)
- 2/13 BBCC 電子図書館研究会研究報告会
- 2/17 新システム運用 WG：目録担当者交流会 (第3回)
- 2/18 NACSIS：新 CAT/ILL 説明会
- 2/19 新システム研修：目録 (工学部説明会) 20日まで (14名)
- 2/25 新システム研修：目録 (理学部説明会) (13名)
- 2/27 分散データベース統合検索用サーバ設置 (経、農)
- 3/2 電子図書館システム披露式 (新電子図書館システム運用開始)
- 3/3 分散データベース統合検索用サーバ設置 (化研)
- 3/5 電子図書館化推進連絡会 (文部省)
文部省科学研究費研究成果流通環境に関する総合的研究：報告会 (軽井沢)
- 3/18 新システム全学説明会
- 3/19 近畿北部地区機械化連絡会議
- 3/27 閲覧システム移行作業開始

以 上

井戸松尾家文書仮目録について

このたび、山下正男本学名誉教授の尽力により井戸松尾家文書が附属図書館に寄託された。

井戸松尾家文書は、洛西松尾井戸町に代々居を構えていた井戸松尾家の現当主松尾碩彦氏の所有である。井戸松尾家は松尾社社家の第十番目の分家であるが、早くから社家を離れ、江戸時代を通じ、歴代にわたって禁中非蔵人職を世襲した。

文書は非蔵人松尾為美によって、嘉永5年から明治27年にわたって書き続けられた日記であり、その他に系図等の諸文書が含まれている。

明治維新前までの日記には禁中の諸行事等が詳細に記述されている。また、維新後の日記からは士族とはなったが禄を失った元非蔵人家の苦闘が鮮明に読みとることができる。

この文書は松尾第十分家のものであるが、松尾第七分家(おなじく非蔵人家)の文書はその直系子孫である松尾剛氏が保存しておられ(マイクロフィルムは東京大学史料編纂所にある)、目録が出されている。

両家の文書を総合的に研究すれば、江戸期の朝廷の内情がより明らかになると考えられる。

なお、以下の仮目録は寄託受入のために作成されたものである。

(受入掛)

井戸松尾家文書仮目録

No.	年月日	文書名	備考	大きさ
1	明和4丁亥年	日記	墨付 10丁	243×164mm
2	嘉永5壬子年従正月吉日	日記 西松尾	墨付 65丁	247×153mm
3	従嘉永6丑年霜月 (為安政元)同7年正月より	日記 為美	墨付 30丁裏に非職 藏人秦為美花押	242×172mm
4	安政2卯年自正月吉日	日記 為美	墨付 56丁	250×173mm
5	安政3丙辰歳従正月吉日	日記	墨付 36丁 花押 裏に為美所持と明記	248×172mm
6	安政4丁巳歳	日記 秦為美	墨付 25丁	238×162mm
7	文久5戌歳従正月吉日	日記 為美	墨付 33丁	247×170mm
8	文久3癸亥歳従正月吉日	日記 凌秋	墨付 37丁	224×154mm
9	文久4甲子歳(為元治元) 従正月吉日	日記 為美	墨付 35丁	240×164mm
10	元治2乙丑歳(為慶応元) 自正月吉日	日記 凌秋	墨付 34丁	223×150mm
11	慶応2丙寅歳従正月吉日	日記 凌秋	墨付 29丁	242×168mm
12	慶応3丁卯歳従正月吉日	日記 凌秋	墨付 21丁	235×156mm
13	慶応4戊辰歳(為明治元) 従正月吉日	日記 為美	墨付 13丁	243×162mm
14	明治4年辛未従正月	日記 為美	墨付 62丁	243×163mm
15	明治5壬申歳従正月吉日	日記 為美	墨付 42丁	243×164mm
16	明治7年従8月 同8年従1月	日記 為美	墨付 38丁	247×169mm
17	明治10年従1月	日記 為美	墨付 44丁	246×168mm
18	明治12年卯従1月1日	日記 為美	墨付 133丁	234×158mm
19	明治13辰年従1月吉祥日	日記 為美	墨付 101丁	226×155mm
20	明治26年1月より 同27年1月	日記	墨付 98丁	231×154mm
21	安政2卯歳自正月吉祥	備忘 秦為美	墨付 49丁	90×58mm
22	安政2卯年自正月	備忘 為美	墨付 10丁	154×212mm
23	従安政6未歳正月 同7年 万延2辛酉年	諸雑記備忘 為美	墨付 19丁	247×167mm
24	慶応4丁辰歳正月より	備忘 為美	墨付 3丁	132×195mm
25-1	従明治元辰9月19日	皇学所備忘 為美	墨付 43丁	132×192mm
-2	従明治2己巳年6月	備忘 為美	25-1、25-2は合冊	
26	明治2己巳歳11月	大学校代 学神従東京着御鎮祭備忘 為美	墨付 2丁	131×194mm
27	辰春	備忘 甲 書込雑記 為美	墨付 36丁	133×194mm
28	辰8月より	備忘 乙 書込雑記 為美	墨付 34丁	133×194mm

29	安政6未歳より	備忘 凌秋	墨付 18丁	112×80mm
30	安政6未年	備忘不許他見	墨付 21丁 花押	118×169mm
31	万延元申歳	雑々備忘 凌秋	墨付 9丁	244×167mm
32	慶応4戊辰歳	備忘	墨付 8丁	125×192mm
33	辛未	備忘 凌秋	墨付 63丁	130×190mm
34-1	嘉永7寅年10月12日未 (為安政元)	登和 入輿二付諸雑費之 扣 為美	墨付 18丁	308×113mm
-2	安政4丁巳年3月	菅枝 初節句備忘 西松尾家	34-1、34-2は合綴	
35	安政3年7月8日之処 延引8月1日	菅枝 宮参詣雑記 秦為美 花押	墨付 3丁	330×119mm
36	万延元申年	地藏堂修覆寄附其外 諸入用之留 願主 為美	墨付 3丁	341×123mm
37	明治4辛未年2月	葛野郡松尾谷村 松尾為美	墨付 4丁	201×276mm
38	明治4辛未年8月	葛野郡松尾谷村 松尾為美	墨付 4丁	201×277mm
39	明治11年5月11日	忌服御届 松尾為美	1丁	266×386mm
40	明治11年11月27日	借用金ノ證 借り主松尾 為美 受人松尾房直	1通	278×623mm
41	元禄13年8月24日～ 明治5年7月まで	中西家家伝	墨付 8丁	196×266mm
42	慶応3庚午年壬10月	御改ニ付差出候写 為美	墨付 4丁	202×280mm
43	己巳初冬(明治2年)	官禄規則 為美	墨付 11丁	131×194mm
44	不明	官員録 己三月改正	官版 48丁	101×168mm
45	明治2己巳歳11月	寄宿所規則 秦為美	墨付 5丁	133×194mm
46	明治2己巳歳11月写	官位相当表 為美	墨付 10丁	129×197mm
47	庚午(明治3年)11月	制服雛形写 為美	墨付 5丁	248×170mm
48	庚午(明治3年)12月	(仮)辞令 松尾為美 宮内省	1通	213×547mm
49	辛未(明治4年)9月	(仮)辞令 松尾為美 宮内省	1通	216×563mm
50	明治7年2月25日	(仮)辞令 松尾為美 教部大丞従五位三島通庸	1通	220×284mm
51	明治9年5月18日	(仮)辞令 松尾為教	1通	218×287mm
52	明治14年10月18日	(仮)辞令 松尾為教	1通	226×311mm
53	明治26年4月4日	(仮)辞令 松尾為教 松尾神社社務所	1通	209×243mm
54	明治27年3月	(仮)辞令 松尾為教 松尾神社宮司	1通	177×243mm
55	明治38年12月25日	(仮)辞令 松尾為教 京都府	1通	270×194mm
56	明治39年11月29日	(仮)辞令 松尾為教	1通	270×194mm
57	明治39年12月19日	(仮)辞令 松尾為教	1通	196×273mm

		京都府			
58	明治40年6月22日	(仮)辞令 松尾為教	1 通		270×193mm
		京都府			
59	明治40年8月15日	(仮)辞令 松尾為教	1 通		274×196mm
		京都府			
60	明治42年5月31日	(仮)辞令 松尾 禎	1 通		270×197mm
		葛野郡役所			
61	明治43年2月21日	(仮)辞令 松尾 禎	1 通		271×197mm
		葛野郡役所			
62	大正元年9月10日	(仮)辞令 松尾為教	1 通		272×196mm
		宮内省			
63	大正4年10月6日	(仮)辞令 松尾為教	1 通		227×307mm
64	従明治3庚午年12月	御布告留 為美	40丁		266×197mm
65	明治4辛未歳11月ヨリ	京都府 御布告留	墨付 28丁		245×167mm
66	従明治5壬申歳正月	御布告留 為美	墨付 10丁		253×170mm
67	従明治9年8月	御布告 抜書 為美	墨付 26丁		133×194mm
68	明治4辛未年正月ヨリ	京都府 觸頭ヨリ	墨付 42丁		240×166mm
		廻章写(壹) 為美			
69	明治4辛未年5月ヨリ	京都府 觸頭ヨリ	墨付 33丁		247×170mm
		廻章写(貳) 為美			
70	明治4辛未年	京都府江差出シ之留 為美	墨付 21丁(5紙挿入)		167×245mm
71	壬申(明治5年)8月	御印鑑返上扣 松尾為美	1 通		275×191mm
72	明治5壬申年10月ヨリ	京都府江書付差出之写 為美	墨付 1丁		165×239mm
73	不明	皇学所御規則 為美	墨付 15丁		266×196mm
74	不明	勅宣 薩長兩藩各列侯 伯江降下之写 為美	墨付 6丁		240×166mm
75	明治8乙亥年2月17日	(仮)種痘済証 松尾為教	1 通		183×182mm
76	明治9年4月検	種痘證符 松尾為教	1 通		51×152mm
		種痘養生書(包紙付)			
77	明治14年8月18日	書入質 松尾為教	1 通		276×395mm
78	明治14年12月7日	金禄公債証書名前書替願 松尾為教	1丁		263×372mm
79	明治14年12月10日	代換ニ付金禄公債証書讓 受御届 松尾為教	墨付 2丁		265×191mm
80	明治15年6月26日	証 中村為信、松尾為教	墨付 1通		275×195mm
81	明治18年11月記	家法改業ニ付呉竹 松尾 兩家關係書類並ニ家法ニ 関スル一切ノ書類写 松尾為教	墨付 9丁		247×172mm
82	大正元年11月9日	保證書	3丁		277×195mm
83	明治9年12月27日	(仮)精勤表彰 主典 松尾為教 松尾神社社務所	1 通		161×228mm

84	明治10年11月27日	(仮)感謝状 松尾為美 京都府	1 通	197×516mm
85	明治18年10月10日	(仮)感謝状 松尾神社 主典 松尾為教・京都府	1 通	197×265mm
86	明治20年 2 月12日	(仮)感謝状 松尾為教 京都府知事	1 通	228×309mm
87	明治27年10月 1 日	(仮)感謝状 松尾為教 京都府	1 通	193×260mm
88	明治36年 6 月30日	(仮)感謝状 松尾為教 軍人遺族救護義會長	1 通	187×257mm
89	明治37年11月 3 日	(仮)感謝状 松尾村長	1 通(後半のみ)	190×257mm
90	明治38年 1 月15日	感謝状 松尾為教 松尾村長	1 通	192×270mm
91	明治38年 2 月10日	(仮)感謝状 松尾為教 京都府知事	1 通	225×306mm
92	明治38年 5 月20日	(仮)感謝状 松尾為教 日本赤十字社	1 通	220×303mm
93	明治38年11月10日	(仮)感謝状 松尾為教 京都府知事	1 通	244×306mm
94	明治39年 5 月 5 日	感謝状 松尾為教 松尾村	1 通	256×328mm
95	明治 9 年 4 月24日	(仮)承諾証 松尾為教	1 通	192×476mm
96		(仮)承諾証の包み紙	1 紙	246×338mm
97	明治10年 5 月18日	(仮)承諾証 松尾為教	1 通	185×487mm
98	明治40年 7 月28日	修了証 松尾為教 京都府神職会	1 通	252×350mm
99	明治30年 2 月12日	締盟状 松尾為教 日本赤十字社	封筒付 1 通	210×301mm
100	明治32年 8 月19日	囑托状 松尾為教 京都生命保険株式会社	1 通	194×271mm
101	明治38年 9 月13日	講習證書 松尾為教 京都府葛野郡長	1 通	270×193mm
102	明治44年 6 月19日	告知状 松尾為教 松尾村長	1 通	196×268mm
103		(仮)公文書写 松尾為教	1 枚	245×338mm
104		履歴書 松尾為教	墨付 2 丁	276×197mm
105	文化 9 年同10年	女房次第	墨付 13丁	140×216mm
106	文政 4 年		墨付 35丁 花押 裏に房頼所持とあり	122×190mm
107	文政乙酉(8年)	秘曲 不許 他見	墨付 47丁	137×210mm
108	天保 4 巳年 4 月吉日	登美女 入輿并ニ祝儀 入用覚	1 冊	340×122mm
109	天保 7 申年11月	奉願上口上之覚 非藏人 松尾備中	1 通	357×560mm

110	天保7申年12月	奉願上口上之覚 非蔵人 松尾備中	1通	162×446mm
111	天保8酉年正月	奉願上口上之覚 非蔵人 松尾備中	1通	162×442mm
112	天保8酉年11月	島原出所一件備忘	墨付 18丁	218×150mm
113	天保9戌年4月	壽加麻呂 疱瘡雜記	1冊	363×153mm
114	文政5午年7月	地藏堂建立入用扣 願主 寿	1冊	340×124mm
115	安政7庚申歲正月	非蔵人松尾山城出番 二付御肴献上并夫々 進上物扣 相完心覚	墨付 6丁	139×200mm
116	文久3年4月11日 還幸12日申下刻	石清水 行幸次第 右兵衛大尉源花押	墨付 8丁	131×196mm
117	明治5年9月10日	第一回小試験記点表 松尾為康	1通	134×180mm
118	明治5壬申年11月24日	(仮)忌服御届 他諸種御届控	墨付 6通(1綴)	200×280mm
119	明治12年10月24日	造作御届 松尾為美	1通	250×345mm
120	明治25年起稿 第一号	老水之友	墨付 23丁	123×170mm
121	辛未4月4日	京都府江差出之写	墨付 4丁(4紙挿入)	278×222mm
122	2月3日～5月7日	(仮)日記	墨付 19丁	240×167mm
123	未5月10日より	松尾豊前 諸入用之扣 松尾掃部	22丁	237×170mm
124	巳9月5日	覚		158×212mm
125	2月27日	町奉行所より到来之切紙	14丁	205×155mm
126		長州侯より肥後侯江 被仰合御趣意書	墨付 9丁	243×172mm
127		松尾下山田村 借地	墨付 7丁	275×200mm
128		山城国乙訓郡立願山 楊谷寺畧縁起	1冊	158×215mm
129	明治7年5月30日檢	種痘證符 松尾為美 長女 菅枝	1通(包紙付)	153×49mm
130	天保15辰年2月吉日	瑞泉寺由来書		153×212mm
131		(仮)家禄	墨付 2丁	277×200mm
132	後11月1日～翌年5月14日	(仮)日次書抜	墨付 60丁	228×166mm
133	文化6巳年11月	大晦日掛心得覚 為貞	墨付 20丁	201×143mm
134	文政3辰年同4年同5年	日次書抜	墨付 43丁	201×160mm
135	文政8年5月	為千代疱瘡并死去之雜記 去年正月十日誕生二歳	墨付 6紙	125×348mm
136	天保13年12月13日	一相戒念童女 三歳 房頼娘	表紙共3丁	134×197mm
137	嘉永5歳従子4月	諸法事入用送物等扣	墨付 21紙	124×352mm
138	安政5年6月17日 安政5年6月23日 安政5年8月15日	宣命部類	墨付 5丁	250×173mm

	安政5年8月21日			
	安政5年8月23日			
139-1	文久3癸亥年	為致病氣見舞至来之扣 四月廿七日	墨付 3紙	
139-2	文久3癸亥年4月	秦為致凶事雜録 行年 拾三歳	墨付 29紙	
139-3	文久3亥年6月	葬送到来物之留	墨付 2紙	
139-4	文久3亥年3月	入来之留	墨付 2紙	
			139-1~4合綴(包紙付)	
140	文久3癸亥年4月27日申刻	松尾山城死去ニ付諸雜費扣 秦為致彦命行年八歳	墨付 9紙	136×402mm
141	文久3癸亥4月27日	秦宿禰為致君凶事雜録 行年十三歳	墨付 5紙	115×300mm
142		(仮)松尾為致死去通知草稿 (松尾)為教	1通	154×279mm
143	亥年6月19日	證記 来迎寺より松尾家宛	1通	161×299mm
144		(仮)松尾日向(為教)宛書状 祐行以下義邦まで26名より 祐行以下誠之まで26名より 重繫以下重進まで25名より 定久以下相徳まで22名より	4通(各包紙付、こよりで1束ね) 1通 1通 1通 1通	
	-1 6月27日付			
	-2 6月27日付			
	-3 6月28日付			
	-4 7月4日付			
145-1		操源院殿廿五回忌秦為致彦 命三回忌雜記 (慶応元乙丑年5月26日引上)	1冊(こよりで1束ね)	178×482mm
	-2	(仮)献立	1枚	
146		(仮)献立 (仮)買物控	1紙 1紙	
147		覚(材料)	1紙	
148		松尾豊前宛宛相完書状	4通	
	-1 17日付			
	-2 5月2日付			
	-3 5月3日付			
	-4 6月22日付			
149	文久3年6月	(仮)秦宿禰為致埋葬時祝詞 葬主 秦宿禰為教	1通	304×421mm
150		松尾社務本家庶子家近代系図	1枚	304×421mm
151		御遺物留	墨付 16丁	215×165mm
152	巳8月ヨリ	雜記備忘	墨付 6丁(1紙挿入・ 覚)	242×170mm
153		覚 御装束所 大西・榊屋源七	2通	180×406mm
154	7月2日	覚 平野屋徳兵衛より松尾家施 主宛	1通	164×277mm

155		(仮)覚	1紙	152×145mm
156	亥6月(文久3年)	非蔵人 御番頭御中 口上覚 村上左兵衛	1通	165×452mm
157		奉願上口上之覚	1通	147×393mm
158	明治38年4月5日	(仮)書状 有吉三七より上田末次郎宛	1通	187×512mm
159		(仮)元非蔵人 高現米四十四石壺斗 生國山城 村越三十良 觸下中西久頼	7枚(こより綴)	77×273mm
160		非蔵人系譜	墨付 3丁	200×277mm
161		(仮)家禄	墨付 3丁	192×277mm
162		(仮)一禄現米 秦為美 他	墨付 1丁	169×247mm
163		(仮)一禄現米 秦為美 通称 松尾秀雄 他	墨付 1丁	202×279mm
164		(仮)一禄現米 秦為美 通称 松尾秀雄 他	墨付 4丁(3紙挿入)	202×280mm
165		官禄規則	墨付 11丁	134×197mm
166		大學校規模	11丁	246×171mm
167	明治8年7月	京都府下 改正小學校 教師規則	1冊(折込1枚)	220×151mm
	明治8年7月改正	(京都府布令書番外26) 京都府下 下等小學校則		
	明治8年7月改正	(京都府布令書第355号) 京都府下 小學校則		
	明治8年7月改正	(京都府布令書第355号) 京都府下 小學下等課業表		
168		京都櫻橋財團諸規程	1枚	267×380mm
169	明治42年12月23日 内務大臣許可	京都櫻橋財團寄附行為	9ページ印刷物	260×150mm
170		舊交會規約	1枚	179×256mm
171		官位相當表	1枚(疊物)	265×359mm
172	安政元年寅10月	古京規矩町代共誤り一札 御朱印戻納諸色写録	墨付 14丁	248×170mm
173		長州侯上書之写 水藩士上書之写	墨付 9丁	246×167mm
174	文化15年戊寅正月21日	聚洛組願書本紙之写	墨付 21丁	251×173mm
175		朝鮮荅書譯	墨付 2丁	242×170mm
176	嘉永6年6月	異國船渡來畧記 全	墨付 14丁	242×171mm
177	明治6年閏	本佐録 全	墨付 37丁	245×168mm
178		新聞雜誌 第十四(第2~8丁)	印刷物	228×155mm
179		老のくりこと	墨付 5丁	281×202mm

180		古今和歌集 卷第十一～二十	81丁	275×178mm
181		水戸黄門公 告志篇 全 墨付	23丁	270×197mm
182		明治天皇御製伯爵東郷平八郎謹書		452×294mm
183		(仮)皇子哲宮 母葉室家 1枚 降誕日、逝去日、寺院名が記載		135×537mm
184	明治15年5月19日	(仮)依頼状	1通	197×267mm
		松尾神社から塩田助右衛門宛		
185	11月26日		1通	154×413mm
186	天保4年7月	東三位秦相命 花押	1通	163×450mm
187	明治35年7月	朝廷旧官人諸士之恩命 墨付	3丁	236×160mm
		諸願ニ関スル具申書		
188		(仮)文化年中松尾大和房秀 (間取図)	4丁	280×200mm
189		(仮)行列順番表	1枚	342×246mm

***** 目 次 *****

電子図書館披露式(1998.3.2)特集

生まれたての電子図書館をよろしく(万波通彦)	2
京都大学電子図書館のスタートにあたって(長尾真)	3
祝辞(文部省学術国際局学術情報課長 林一夫)	5
電子図書館システムデモンストレーション(片山淳)	6
電子図書館を含む新システム関連業務日誌	8
井戸松尾家文書仮目録について	10

京都大学附属図書館館報「静脩」
Vol.34 No.2-4 (通巻126号)

発行 1998年3月31日
編集 静脩編集委員会
(責任者：附属図書館事務部長)

発行者 京都大学附属図書館
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
Tel.075-753-2613

(編集後記)：電子図書館システムを含む新システムが、1月6日に稼働し始めました。全学の図書系職員が協力したシステムです。電子図書館システムは、3月2日に披露式が開催され、装いも新たにサービスが開始されました。今回はこの披露式の特集を組んでみました。当日の様子がインパクトがあったのか、3月3、4日の朝刊5紙に取り上げられ、3月4日のアクセス件数が28,000以上という数字を記録しました。現在は、8,000アクセスとなり落ち着いてきましたが、反響の大きさに職員一同驚嘆しております。ただ、同時に今後の役割の重さをひしひしと感じており、目標としている京都大学エンサイクロペディアの作成に向けた一層の取り組みが要請されていることも再認識している次第です。(Z)